

～ 最優秀賞 表彰状伝達式 ～  
＜平成24年度「道路ふれあい月間」  
推進標語受賞者への表彰状伝達式を行います＞

平成24年度「道路ふれあい月間」（8月）の行事の一環として、改めて道路の意義・重要性について考えていただくことを目的に、本月間の推進標語を全国から募集しました。

審査の結果、7,798作品の応募の中から、最優秀賞3作品、優秀賞6作品が選ばれました。（別紙参照）

そのうち、徳島県内では下記の方が、最優秀賞を受賞されましたので、表彰状の伝達式を行います。

◆最優秀賞（一般の部）

【受賞者名】 徳島県徳島市 今田 紗江（いまだ さえ）様

【伝達式日時】 平成24年8月24日（金）16：00～

【伝達式場所】 徳島河川国道事務所 事務所長室  
徳島市上吉野町3丁目35

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所

〔問い合わせ先〕

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所

副 所 長（道路） 庵原 伸二（いはら しんじ） TEL 088-654-2211（代表）

◎道路管理第一課長 河野 久茂（こうの ひさしげ） TEL 088-654-9621（直通）

◎主たる問い合わせ先

## 平成24年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

## ◆最優秀賞(3作品)◆

## 【小学生の部】「つなげよう 僕の道から きみの道」

中村 安里 さん 9歳(千葉県 千葉市立本町小学校)

選評：「つなぐ」というキーワードはこの一年の日本のキーワードでもあった。  
「僕」と「きみ」という言葉が単に個人でなく、  
世界中の僕ときみにつながるような広がりのある標語である。

## 【中学生の部】「いつの日も 歩きたくなる 道がある」

鈴木 裕也 さん 14歳(神奈川県 山北町立三保中学校)

選評：「道を友だちにしている」感じがよく出ている。  
きっと大人になってもその道を思い出したりするのだろう。  
優しい感性が感じられる。

## 【一般の部】「一本の 道に日本の 底力」

今田 紗江 さん 44歳(徳島県 徳島市)

選評：東日本大震災から一年を経過した今年ならではの句。  
力強い直球のメッセージを発している。  
道の上に青空が見えてくる。希望が見えてくる。  
この標語から日本中に希望と自信が発せられることを期待する。

◎最優秀賞3作品のうち、「一本の 道に日本の 底力」を今年度の代表標語とします。

## ◆優秀賞(6作品)◆

## 【小学生の部】「ありがとう 未来へ続け この道路」

大矢 裕介 さん 12歳(新潟県 長岡市立前川小学校)

「この道で 今日も出会いが 生まれてる」

池上 流彩 さん 12歳(鳥取県 鳥取市立湖山小学校)

## 【中学生の部】「決めたから この道行くよ どこまでも」

山本 桃子 さん 14歳(富山県 富山市立堀川中学校)

「人と人 つなぐところに 道がある」

川野 友裕 さん 13歳(宮崎県 日向市立平岩小中学校)

## 【一般の部】「明日もまた 道の向こうに 待つ笑顔」

内河 裕信 さん 52歳(神奈川県 相模原市)

「うまいく そんな風吹く 今日の道」

前田 千文 さん 42歳(石川県 加賀市)

※発表内容は応募時点